

行政視察内容報告書

令和 2 年 5 月 12 日

土佐清水市議会議長

永野裕夫様

会派名 新風会

(提出者)氏名 細川博史



下記のとおり報告いたします。

項目	<input type="checkbox"/> 現地調査 <input type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input checked="" type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参加者	弘田条・細川博史 計 2 人
期日	令和元年10月30日から 元年10月31日まで
【概要】(年月日・場所・内容)	
○第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知	
場所 高知ちばさんセンター	
令和元年10月30日～31日にわたり、高知ちばさんセンターで開催された「第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知」に参加しました。	
○基調講演	
基調講演は、東京工業大学教授中島岳志さんによる「現在政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」という講演でした。	
政治は大きく分けてお金の問題と価値の問題という2つの位置づけにもとづいて行われている。政治学の中で「熟議デモクラシー」と「闘技デモクラシー」という2つのパターンに色分けできるということです。	
「熟議デモクラシー」とは、住民が直接的に様々な形で政治に参加し、町全体が自分たちの手でという公共的な精神というものが養われていく。	
「闘技デモクラシー」とは、基本的に重要なのは、政治というものは対抗軸である。対抗者に対して戦いを挑んでいく。一票になんの価値があるんだろうというふうに考えている人たちを立ち上がらせていく。	

【所 感】

そして、人間は間違いやすい動物であるということです。

大平正芳さんの言葉に「政治は60点でなければならない」という言葉があります。100点を取ってはいけません。100点を取る政治は、基本的に「自分は間違っていない」という思い上がりがある中に存在している。むしろ、この間違いというものが誤りではないかとの考え方です。

自分たちは間違いやすい動物である。だから、他者の意見を聞きながら合意形成をしていくことで自由を尊びリベラルを尊重する、これこそが私たちの精神であるというのが考え方です。

革新ではなくしっかりした保守ラインとして位置づけることで、重要な政治のマトリクスとして求められていることではないのかとの思いです。

政治のマトリクスに基づく保守のあり方、リベラルとは一体何なのかということの講演を聴き、大変勉強になりました。

○議会活性化のための船中八策（パネルディスカッション）

コーディネーターに朝日新聞論説委員の坪井ゆづるさん、初日のパネリストには市町村職員中央研修所学長、お茶の水女子大客員准教授、高松丸亀町商店街振興組合理事長、高知市議会議長の4名、翌日のパネリストには、上越市議会議員、鎌倉市議会議員、周南市議会議長の3名で、中身を精査しながら、議会活性化のための船中八策を2日間に渡って議論が行われました。

コーディネーターが取りまとめたものは、

- ①行政監視（行政の監視を強化する）
- ②次世代を考える（20年後等の住民のための議論を行う）
- ③データに基づく（データに基づいた政策づくり）
- ④多様性を確保する（女性や若者の参加を）
- ⑤地方自治法96条を活用する
- ⑥労働法を含めた国の制度も変える
- ⑦情報公開
- ⑧合意形成の議員間の討議

今回、2日間のフォーラムを通して勉強したことを、今後の議員活動に生かし、今度も頑張っていきたいと思います。また、研修会などには積極的に参加したいと思いました。